

年金者一揆2015 主催者あいさつ

全日本年金者組合
中央執行委員長 富田浩康

私たち高齢者の思いを、全国にアピールしてきた年金者一揆、回を重ね、今年は10回目になります。日本の平和を守り、国民一人ひとりの生きる権利を保障する憲法をないがしろにすることは許さない、断固として守る、固い決意を持って、北海道から沖縄まで、1万人余が年金者一揆に総決起しています。

「下流老人」「高齢者破産」などとマスコミも取りあげるような生活に追い込まれている高齢者に対し、国は何をしたか。2.5%削減に続きマクロ経済スライドで際限なく年金を下げ続ける、年金削減を制度化したのです。

これに対し、私たちは、12万を超える不服審査請求、30万の直接請願署名、そして4000人を超えようという原告団で「年金削減は憲法違反だ」という裁判に立ち上がっています。100万を目指す「若者も高齢者も安心できる年金」署名は、35万を突破しました。

戦争する国づくりを目指す政権は、必ず、社会福祉を削り国民の暮らしを犠牲にして軍備を拡張しようとする——これは歴史の教訓です。私たちの、年金を守る、社会保障の充実を求める運動は、安倍政権のすすめようとしている戦争する国づくりに、真っ正面から立ち上がる「たたかい」でもあります。

今年の4月、安倍首相は、アメリカの国会で、同盟軍としてともに戦える法律を8月までに策定すると演説、満場の拍手を受け大満足して帰ってきました。国の主権を投げ捨て、目下の同盟者としてアメリカとともに戦争する国づくりをめざす安倍政権の暴走に対し、戦争する国づくりは許さない、憲法を守れ運動は、全国に広がり、年金者組合も、全国各県・各地域で運動に参加し奮闘しました。

戦争法が暴力的に強行可決されても、民主主義を守れ運動は、しばむどころか全国で広がり続けています。若かりし頃の、60年、70年安保闘争とは違い、ごく普通の若者、お年寄り、お母さんたちが、それぞれの思いを持って行動に立ち上がり、そして、その運動は、民主主義を守れ、憲法を守ろう、戦争する国づくりは許さないという運動として、全国各地に広がり続けています。日本の民主主義運動は、いま重大な歴史的転機を迎えています。

こうした情勢を受け、日本共産党は、戦争法に反対して行動したすべての政党・人々が共同して「戦争法をなくす政府」をつくろうというよびかけを出しました。私たち年金者組合も、戦争法に反対して共同して運動した労働組合・団体のみなさんと、戦争する国づくりは許さない運動を、全国で広げようではありませんか。

100万署名、年金裁判をはじめとする、私たちの社会保障を守る運動は、安倍政権の暴走への大きなブレーキです。「私たちの綱領」にいう「心身ともに健康で楽しい高齢期をつくり出す」、地域にしっかり根を張った「ひとりぼっちの高齢者をつくらない」運動は、国民を分断し支配しようとする政権にとっては、やっかいなことでしょう。

年金者組合が、全国ですすめてきた運動を、さらに強化することが、今の情勢に応え、民主主義を守ろうという大きな運動の一翼を担うことになる、その確信を持って、とりくみを強化しましょう。

大きな運動の広がる中でとりくみです。人と人とのつながりも、今までにない広がりを持ってきています。秋の仲間づくりは、大きな飛躍をめざし、年金者組合の歴史の転機にふさわしい目標と構えで、12月の中央委員会までに、12万組織を突破するよう奮闘することを、最後に訴え、開会のあいさつとします。